

# はじめに

日蓮宗現代宗教研究所 所長

三原 正資

宗門は7年後の平成33年（2021）に宗祖ご降誕800年の慶賀の年を迎える。それに向けて現在、「立正安国・お題目結縁運動」を展開し、教師それぞれが布教活動に取り組んでいる。

しかし、平成24年度宗勢調査の分析に携わってみて、宗門を支える基盤がいま大きく揺らいでおり、この揺らぎは一層拡大しつつあることを感じる。私たちはご降誕800年を見据え、さまざまな観点から次世代の宗門の戦略を練り、来るべき時代の準備作業を進める必要があるのではないかと思われる。そのためには、こうした調査分析を通じひとりひとりの教師が危機感を共有しなければならない。

教研会議などで全国各地を訪れると、明るい話題は少なく、寺院の先行き不透明感を訴える声をよく耳にする。「直葬」が相当増加していることや寺の行事への参加者が著しく減少してきているといった事態からは、社会構造が大きく変動し、寺院を取り巻く環境も変化していると感じざるを得ない。このような変化を端的に表す言葉として一般的になりつつあるのが「人口減少社会」である。

日本の人口はすでに減少へと転じており、「縮む社会」へ向かっている。国立社会保障・人口問題研究所が発表する将来人口推計が、新聞・雑誌などを通じて発表・喧伝されているのにもかかわらず、人口減少問題はまだ各分野で顕在化していないため、国全体での危機感や切迫感が薄いという指摘さえある。人口減少に伴う諸問題が顕在化するのはいずれだといえる。

たとえば、内閣府が発行する『高齢社会白書 平成25年版』によれば、65歳以上の人口を示す高齢化率は、平成25年（2013）に25.1%で国民の4人に1人が高齢者となる。平成47年（2035）に33.4%で3人に1人、平成72年（2060）には39.9%で約2.5人に1人が高齢者という社会となる。一方、高齢化という事態よりも深刻なのは、社会を支える現役世代の減少であり、平成22年（2010）に2.6人でひとりの高齢者を支えていたのが、平成72年（2060）には1.2人でひとりの高齢者を支えると推定されている。

これらの統計は、私たちが生きる遠くない将来社会のすがたであり、私たち寺院活動に携わるすべての人々を取り巻く状況がいつそう厳しくなることを語っている。

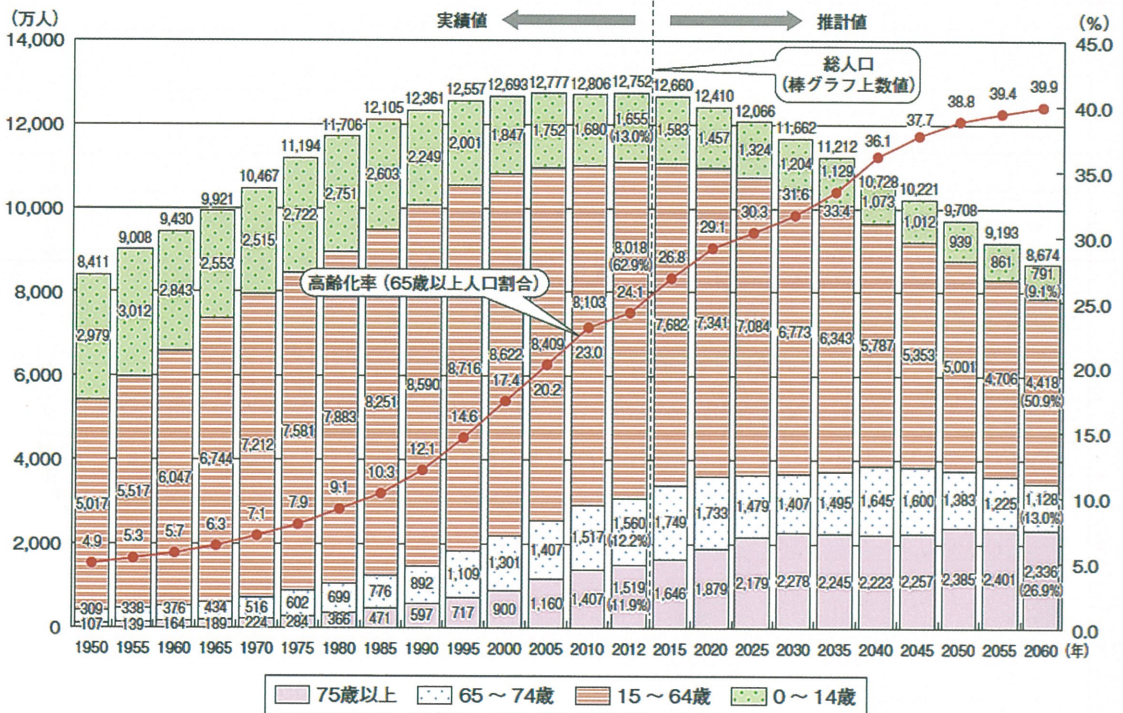
今回、現代宗教研究所においてなされた平成24年度宗勢調査の分析の結果明らかにな

った危機的状況を、多くの宗門人に認識してもらうことを念頭に報告書をまとめた。これまでの常識や慣行にとらわれない施策を生み出すためには、「人口減少社会」というテーマが中心に据えられることとなるだろう。今後、宗門、私たちの寺院活動に深く関わる課題として、この報告書を役立てて頂きたい。

最後に、プロジェクトに快く統計データをご提供頂いた宗勢調査会と調査実務に当たられた宗務院総務部に対し甚深の感謝を申し上げる。

## 高齢化の推移と将来推計

「高齢社会白書 平成25年版」内閣府



資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2012年は総務省「人口推計」（平成24年10月1日現在）、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果  
 (注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む。高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

## 『人口減少時代の宗門』を読むにあたって

日蓮宗の宗勢調査は「宗制」第10号宗勢調査会規程に基づき、8年に1度行われる全寺院・全教師を対象とした悉皆調査である。

- 2 宗勢に関する調査は、本宗の寺院、教会及び結社、僧侶並びに檀信徒について、その実態を把握するため8年目毎に行い、その資料は、統計上の目的以外に使用してはならない。  
(「宗制」第10号宗勢調査会規程)

昭和47年に第1回の宗勢調査が実施されてから、平成24年度は第9回目にあたる。寺院の状況、檀信徒の趨勢、教化活動の実態、教師、寺族の実状といった宗門の現況把握を目的とするのが宗勢調査であるが、その集計結果が十分に検討されてきたとは言い難い。

ここに「現宗研版宗勢調査報告書」ともいうべき本冊子を発行する意義があるとするれば、それは、本報告書に掲載されたいくつかのレポートをきっかけに多くの方々に宗勢調査に関心を抱いてもらい、これらの集計結果を、今後の希望と持続性のある寺院活動・教化活動の参考として頂くことである。同時にそこから導き出される宗門の諸問題をそれぞれの教師が自らの信仰的課題として受け止めて頂ければ、本報告書の役割は果たせたといえる。それぞれの寺院が直面する諸問題は一様ではないが、平成24年度の宗勢調査から浮かび上がり、ここに別出された集計データが示した問題を、多くの方々とともに共有できることを望みたい。



『宗報』（平成25年4月号）に平成24年実施の「宗勢調査報告書」は掲載されている。「寺院の状況」、「教師の状況」、「寺庭婦人の状況」、「調査票・集計表」と調査全般にわたる分析概要が示されている。本報告書で言及する箇所もあるので、適宜参照されたい。